



JAPAN  
MARROW  
DONOR  
PROGRAM

## 緊急安全情報

平成 15 年 2 月 3 日

(財) 骨髄移植推進財団  
認定施設連絡責任医師 各位

財団法人 骨髄移植推進財団  
危機管理小委員会  
委員長 小寺 良尚

### 骨髄運搬中に骨髄液が漏洩した事例(通知)

このたび、骨髄運搬中に骨髄バッグのシール部分が破損し、骨髄液が漏出する事例が発生いたしました。原因は不明ですが、再発防止の観点から、まずはご一報いたします。移植施設からの一報によれば以下のような概要です。

#### < 経過 >

採取施設にて骨髄液受理後、公共交通機関を利用。この時点で確認するも漏洩はなかった。(運搬時間 約 5 時間)  
移植施設到着後、病棟で骨髄液の漏洩を確認。運搬中に特にゆすったり、中を見たりしなかった。  
骨髄液(約 1000ml)は、2 つの骨髄バック(650ml と 350ml)に分けられ、その内 350ml 入っていたバックの、シールされていたところから約 180ml が漏れていた。  
患者体重  $2.86 \times 10^8$  個/kg(採取時： $3.10 \times 10^8$  個 / kg) を輸注した。

#### < 原因 >

漏出した原因等については現在調査中。

#### < 対策 >

各施設におかれましては、再発防止の観点から以下の点に留意して頂きたく存じます。  
シール終了後、骨髄バックに圧を掛けるなどの作業を行い、漏洩がないか確認すること。  
運搬開始前には、再度骨髄バックの状況(シール等)を確認すること。  
可能な限り、骨髄液は複数のバックに分けること。

以上をご確認の上、ご対応をお願い申し上げます。

財団法人骨髄移植推進財団  
事務局

〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町 3 丁目 19 番地  
廣瀬第 2 ビル 7 階  
TEL 03 - 5280 - 8111  
FAX 03 - 5280 - 0002